

ふかくさはいじあと 18. 深草廃寺跡

所在地：越前市深草1丁目14番1、
49番4・6・8・14

調査原因：集合住宅建設

調査期間：平成27年10月26日～12月3日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：400 m²

時代：古代～中世



位置図（S = 1/25,000）

調査の概要 調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の「深草廃寺跡」及び「金剛院城跡」の範囲に含まれる場所です。

平成21年度に今回の調査地に隣接する地点で試掘調査が実施されており、この際は、中世から近世を中心とした遺構と遺物が検出されています。

今回の調査は、集合住宅建設に係る事前の試掘調査によって、遺構が発見されたため、本調査を行うこととなりました。以下、遺構毎に詳細を説明します。

遺構

大型掘立柱建物 調査区の西側部分において、1辺が1mを越える隅丸方形の柱穴が検出され、これは南北方向を主軸とした1間×2間の掘立柱建物です。

調査区外の南側と北側にさらに建物プランが広がる可能性があったため、調査区を拡張して柱穴の確認を行いました。

北側については確認されませんでした。南側部分についてはさらに2本柱穴が確認され、1間×3間の建物であることがわかり、さらに現在の龍泉寺境内に広がる可能性が考えられます。

これらの柱穴からは瓦片が出土し、これまでの発掘で出土している深草廃寺創建期（白鳳期）のものと同様のものですが、柱穴の遣り方や柱痕部分からの出土であるため、建物本体の年代は創建期より下る可能性が高いと考えられます。

また、柱穴内や建物跡周辺からの瓦の出土量が少量であるため、瓦葺きの建物ではなかったと考えられます。このことから深草廃寺の主要な建物ではなく、関連する施設の一部であることが想定されます。

柱穴列 調査区を南西方向から北西方向に斜めに横切る直径1m前後の柱穴が10本確認されました。

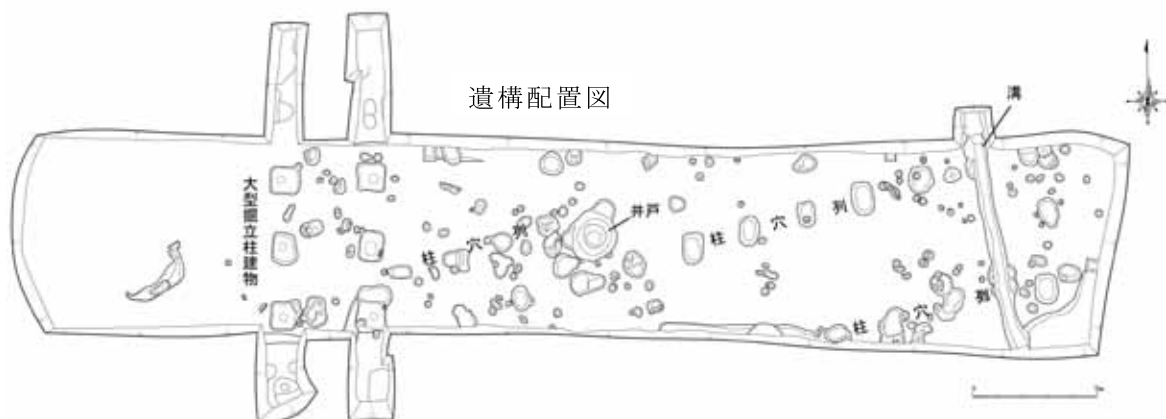
これらの柱穴と対になると考えられる柱穴も並行して見つっていますが、それらは連続して並ばない上、その大半が調査区外であったため、全容は不明です。時期についても、出土遺物が細片で少量であったため確定することはできませんでした。

溝状遺構 調査区の東端で確認された北西から南東方向に走る幅 60 cm、深さ 70 cm、断面形が逆台形状の溝です。この溝からは、前述の大型の掘立柱建物から出土した瓦と同じタイプの瓦が出土しています。

時期はこの建物と同時期のものと考えられますが、大型建物と軸が合わないことや、溝の続きが調査区外に延びていることから、不明確な部分も多いため、現在のところ遺構の性格に関し結論を出すことができませんでした。

井戸 調査区の中央部分で確認された直径 2m の素掘りの井戸で、出土した遺物から中世以降の井戸であると考えられます。

まとめ 今回の調査から、古代から中世にかけての複合遺跡であることが判明し、過去の調査の内容を補強する情報が得られました。そして、今回発見されたような大型の柱穴を持つ建物跡が見つかったことは、大きな成果でした。 (奥谷博之)



左上：全景

左下：大型掘立柱建物
遺物出土状況

右上：大型掘立柱建物
全景

右下：溝 瓦出土状況